

式 辞

春爛漫のこの佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えし、ここに新生群馬県立桐生高等学校第二回入学式を厳粛に挙行できますことに深く感謝し、心より御礼申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました三二二名の皆さん、入学おめでとう。心からお祝い申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。立派に成長された姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、新入生の教育に努力を重ねてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

新入生の皆さんは、百年有余年の歴史と伝統を誇る二校が統合して誕生した本校で、三年間を過ごす権利を得ました。関門を突破してつかんだその幸せをしっかりとかみしめ、これまで育ててくださった多くの方への感謝の気持ちとともに、今日の決意を心に刻みつけてください。

さて、高校生活の始まりに当たり、「寛容の精神をもって前向きに生きる」というお話しをします。「寛容」とは、広い心をもち他を受け入れることです。

現代は「ダイバーシティ」つまり多様性がキーワードとなる時代です。性別や年齢、国籍、職歴、価値観など様々な属性をもつ人々を等しく認め、互いの違いを受け入れ、活かしあいながら、それぞれに実力を発揮することが求められます。これからの高校生活の中で、異なる考え方や価値観を理解し、認め合うことにより、視野を広げ、柔軟に対応できる力を磨いてください。

皆さんの中には、計画的にコツコツやることが得意な人もいれば、追い込まれて本気になる人もいるでしょう。勝負強い人もいれば、そうではない人もいるでしょう。「あの人はできているのに、自分ではできない……」と比較して落ち込む経験は、誰しもあるものです。

「ありのままの自分」を受け入れ、今やるべきことは何かを考え、努力を続けることが大切です。

「諸行無常」というように、この世のものはたえまなく変化し続けています。人間もそうです。「言霊」という言葉があるように、口に出す言葉は自分に影響してきます。意識して「自分ならできる」「これができたら自分はすごい！」とポジティブな言葉を使いましょう。もちろん、うまくいかない時もあります。その時はいつか結果が出ると信じ、根気強く努めてください。そして、大きな夢と高い志をもって、社会に貢献する人材に成長してほしいと願っています。

本年度の入学式も、参加者数の制限等の対応をとらせていただきました。皆様にはご協力を賜り、心より感謝申し上げます。学校といたしましても、引き続き感染予防に努めてまいります。ご家庭におかれましても、感染予防をはじめ、本校の教育活動に対しご理解・ご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんにとって、高校生活が実り多きものとなるよう祈念し、式辞といたします。

令和四年四月八日

群馬県立桐生高等学校長

高橋 浩昭